

通し番号	4914
------	------

分類番号	30-24-12-05
------	-------------

1月どりブロッコリー栽培では‘アーサー’、1～2月どりでは‘クリア’が有望です	
[要約] 1～2月どりブロッコリー栽培では、耐病性や耐寒性、花蕾品質から1月どりは‘アーサー’、2月どりは‘美緑408’、‘むつみ’、‘りんな’及び‘ウィンタードーム’が有望である。アントシアニンレス品種では‘クリア’が有望である。	
神奈川県農業技術センター・生産技術部	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

ブロッコリーは周年需要があり、県内各地域で市場向け、直売向けに生産されている。本試験では、耐病性や耐寒性、花蕾品質等の面から本県に適した優良品種を選定した。

[成果の内容・特徴]

- 1 収穫期間は、12月21日～2月27日となった。出蕾時期が最も早かった‘アーサー’は12月下旬から収穫が可能であり、対照品種‘グランドーム’と比べて収穫期間が長い(表1)。
- 2 供試品種全てが‘グランドーム’に比べて、花蕾重が重く、特に‘美緑408’が、次いで‘クリア’が重い。同様に、供試品種全てが‘グランドーム’に比べて、花蕾形状、花蕾凹凸及び粒揃い等の外観品質に優れ、生理障害が少ない。(表1、図1)。
- 3 1月どりでは‘アーサー’が、2月どりでは‘美緑408’、‘むつみ’、‘りんな’、‘ウィンタードーム’が、アントシアニンレス品種では‘クリア’が有望である(表1)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 ‘美緑408’、‘むつみ’、‘りんな’、‘ウィンタードーム’を選定する際にはアントシアニンが発生することに留意する。
- 2 通常の慣行防除を行うことでべと病の発生は問題ない。
- 3 台風による倒伏や厳冬などの気象の影響により、花芽形成期から収穫開始期に成育が遅れると、収穫最盛期に1か月程度の遅れが見られることがある。

[具体的データ]

表1 収穫物の特性

品種	出蕾時期 ^z	収穫期間	花蕾重 ^y (g)	花蕾径 (cm)	花蕾高 (cm)	茎径 (cm)	茎空洞 ^x (0-2)	花蕾凹凸 (不良1 ~良3)	粒揃い (不良1 ~良3)	花蕾粒 (小1 ~大3)
アーサー	12月3日	12/21~2/21	370.9	12.2	6.5	4.5	0.1	2.2	2.4	2.2
むつみ	12月13日	2/4~2/27	383.7	12.5	7.1	4.7	0.4	2.0	2.2	2.3
りんな	12月13日	2/4~2/27	385.3	12.4	7.1	4.6	1.3	2.0	2.2	2.3
美緑408	12月25日	2/8~2/27	444.8	12.3	7.6	5.4	0.7	2.1	2.4	2.1
クリア	12月25日	2/8~2/27	428.5	12.5	7.7	4.9	0.0	2.0	2.0	1.7
ウインタードーム	1月7日	2/18~2/27	417.7	12.4	8.3	5.0	0.9	2.0	2.1	2.6
グラドーム(対照)	12月7日	1/4~2/18	325.7	12.3	6.2	4.3	1.2	1.7	1.9	2.0

品種	生理障害・病害発生度 ^w					アントシアン	判定 ^v
	キャッツアイ	リーファイ	ブラウンビーズ	べと病(花蕾部)	軟腐病		
アーサー	22.4	2.6	6.9	0.9	0.0	0.0	○
むつみ	2.9	19.2	3.8	1.0	0.0	47.1	○
りんな	12.0	15.0	5.0	0.0	0.0	42.0	○
美緑408	8.3	17.6	1.9	0.0	0.0	23.1	○
クリア	18.5	5.6	0.9	0.0	0.0	0.0	○
ウインタードーム	9.8	6.5	1.1	1.1	0.0	0.0	○
グラドーム(対照)	30.2	27.1	7.3	0.0	0.0	52.1	-

8月20日播種、9月23日定植。各区12株2反復調査(拾いどり)。z 調査株の半数が出蕾した日。y 花蕾を含む花茎長を17cmに調整した。x 出荷形態の花茎切断面目視により、空洞の長さが1cm未満が1、1cm以上を2とした。w 発生程度をなし(0)~甚(4)とし、発生度=Σ(発生程度×発生数)/(調査数×4)×100より算出した。



図1 有望品種の花蕾部の外観

- [資料名] 平成30年度試験研究成績書(野菜)
- [研究課題名] 12~2月どりブロッコリーの品種比較試験
- [研究期間] 平成28~30年度
- [研究者担当名] 池田航介・高田敦之
- [協力・分担関係]